

2020年度春学期実施
「遠隔授業に関するアンケート」
結果から見えたこと

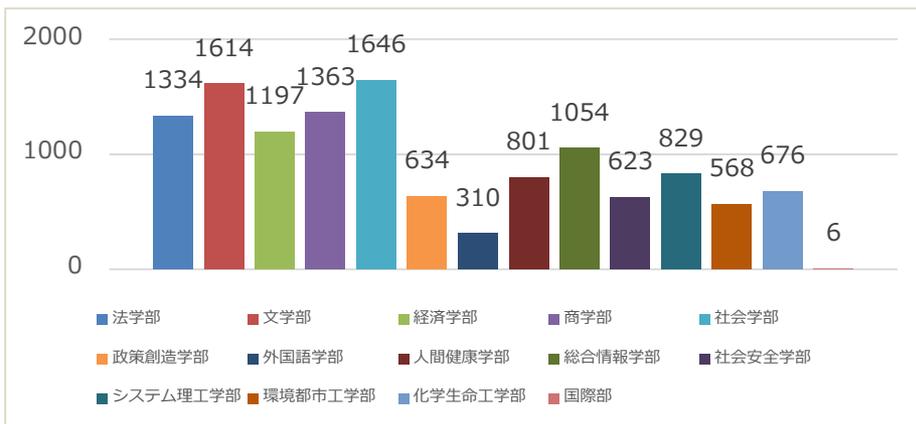
教学IRプロジェクト



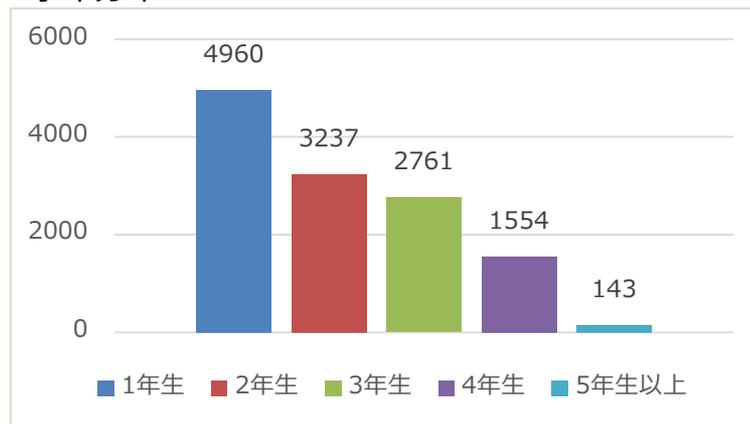
- 関西大学は2020年度春学期授業は、一部の科目を除き、遠隔授業が実施された
- 教学IRプロジェクトでは、以下のとおり、学部学生に対してアンケートを実施し、学年別集計や学部別集計を行った
- 2020年度春学期遠隔授業の振り返りや今後の授業改善に役立ててもらうため、集計結果や自由記述を以下5つの事項に整理

- 1 調査期間：2020年7月6日（月）～7月31日（金）
- 2 実施対象：学部生全員（28,369名）
- 3 調査方法：無記名によるインターネットを活用したアンケート調査
- 4 調査結果：有効回答 12,655件（回答率 44.6%）
- 5 回答者属性：

学部別回答数

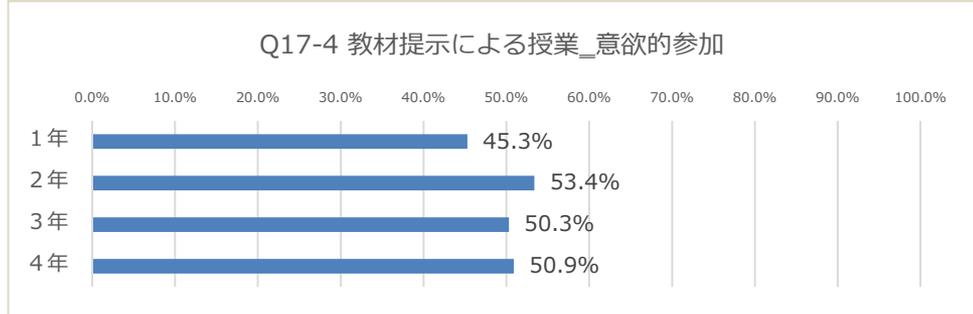
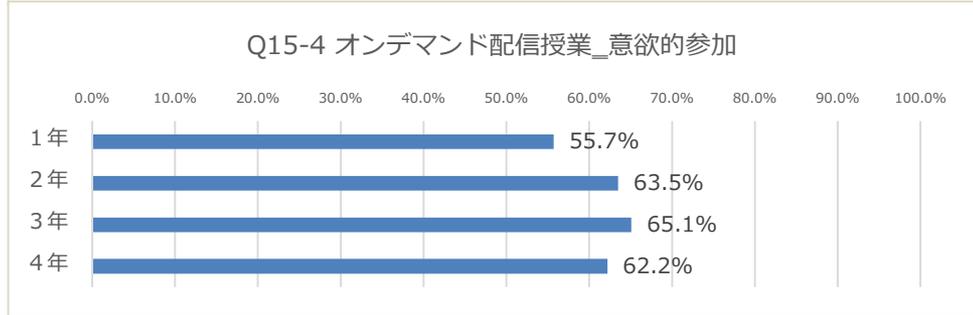
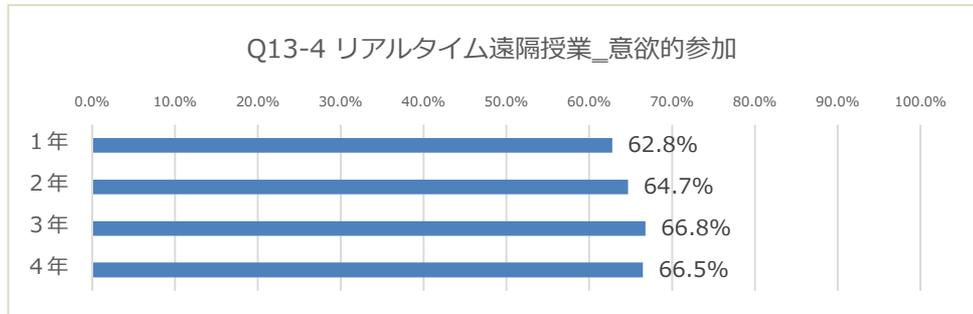
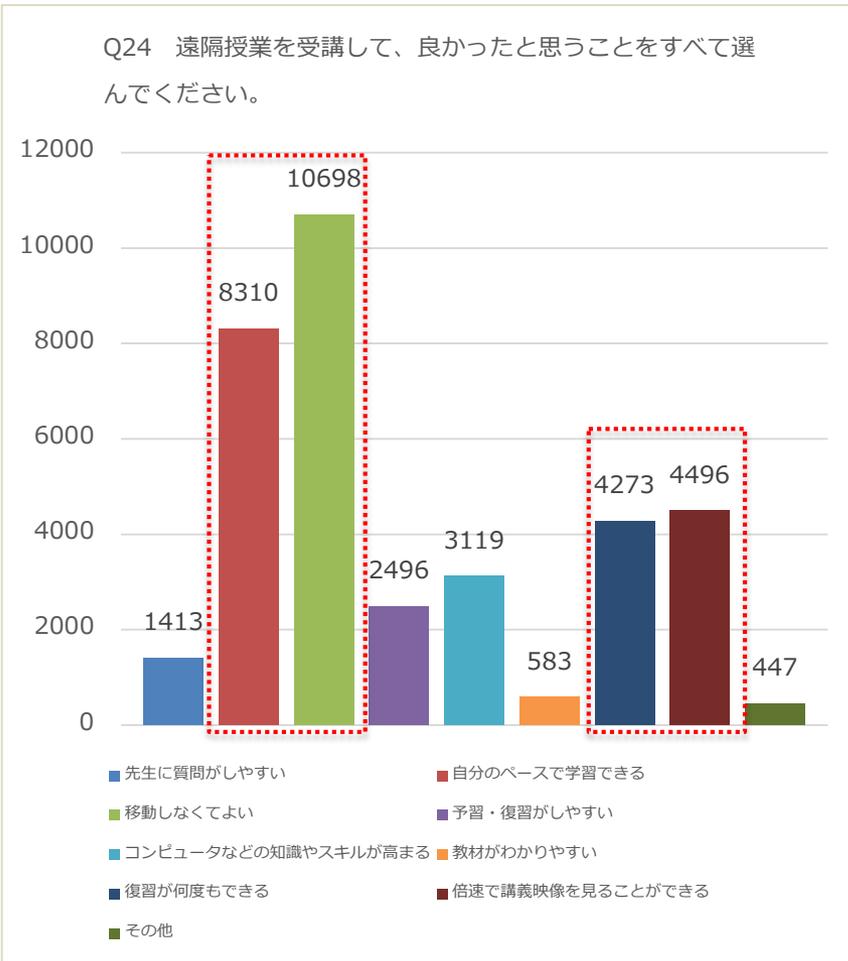


学年分布



1 遠隔授業の肯定的な声について

- 通学時間の節約（学習時間に転換？）
- 自分のペースで学習できる（約7割の学生が時間割と異なる時間で学習）
- 予習や復習がしやすい、倍速で講義映像を見ることができる
- 授業形態に問わず、約半数の学生が意欲的に参加したと回答

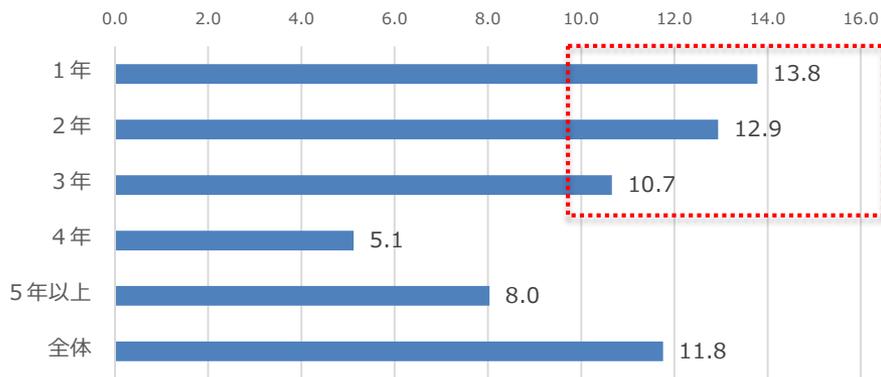


※意欲的参加：「どちらかといえばあてはまる」+「あてはまる」

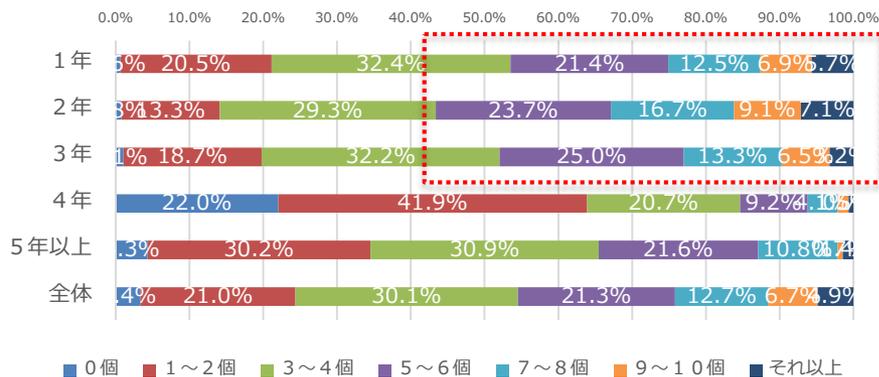
2 課題の量について

- 1 週間平均して 1 年生13.8科目、 2 年12.9科目、 3 年10.7科目を履修
- うち、約半数以上が1週間に 5 個以上のレポートを抱える状態
- 7 割以上の学生が課題の量にストレスを感じていた状態

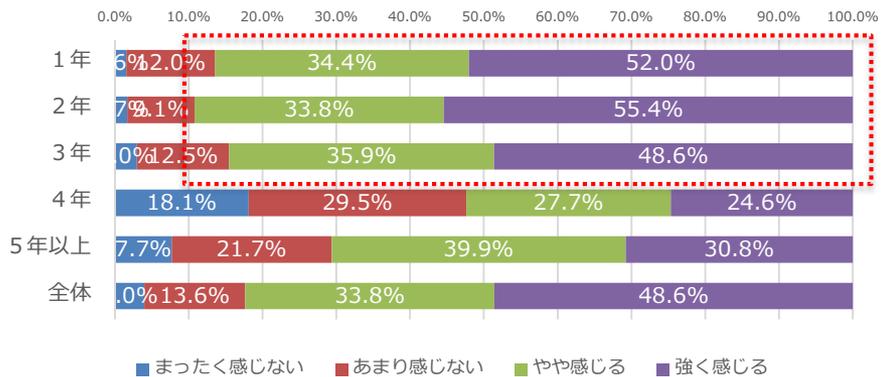
Q11 春学期の履修科目数 (平均)



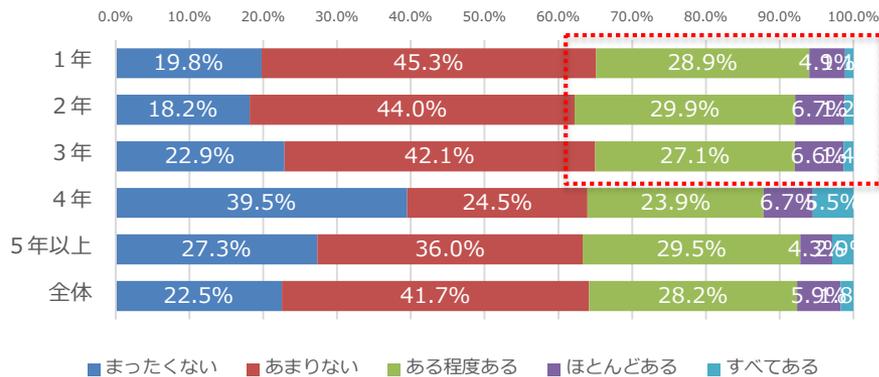
Q22-1 1週間当たりのレポートの数



Q8-4 課題の量にどの程度ストレスを感じたか

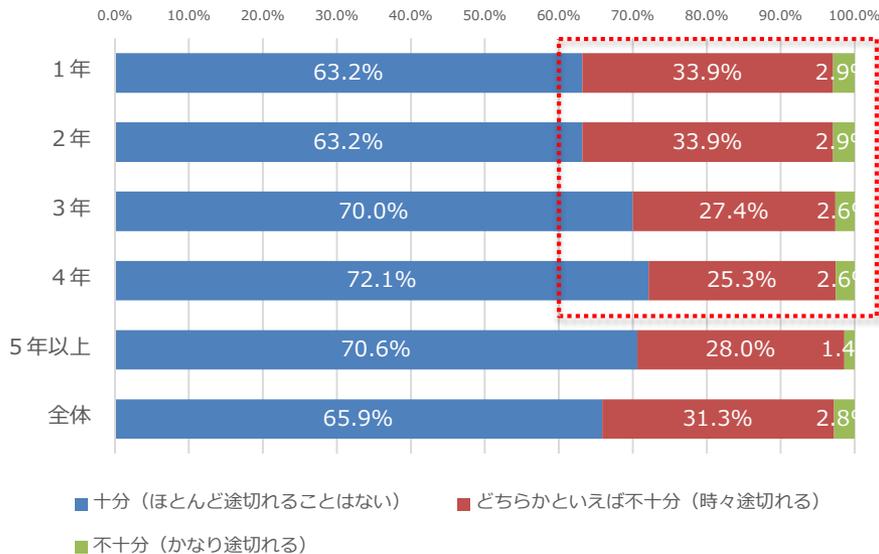


Q23-1 レポート課題へのフィードバックはどの程度あったか

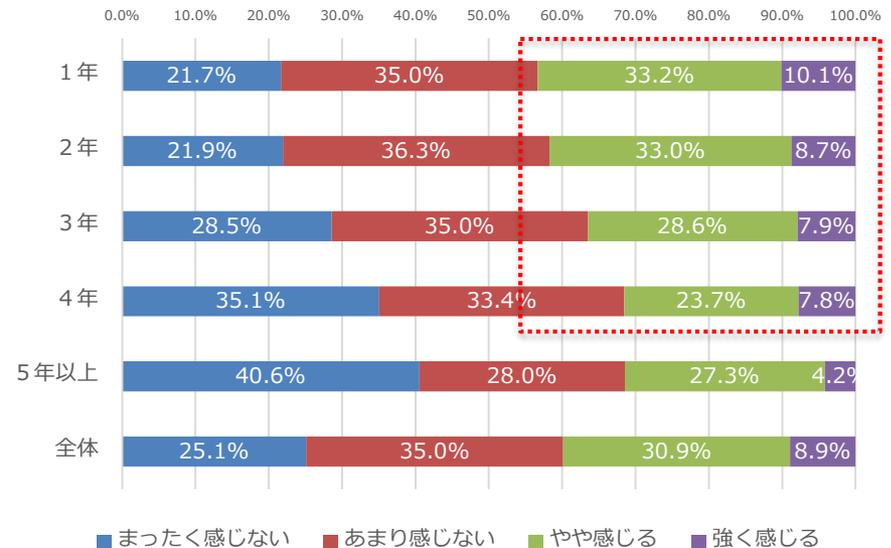


- 約3割の学生は、「時々途切れる」状態を経験し受講していた
- 通信状態へのストレスは、下位年次ほど強く感じる結果となった
- 通信の乱れで聞き取れなかったり、わからない部分などがあり、録画した動画の視聴に対する要望があった（自由記述より）
- 目が疲れる、肩こりがあったりといった体調不良の声があった（自由記述より）
- ビデオON/OFF（いわゆる顔出し）にストレスを感じる声もあった（自由記述より）

Q7 通信状態は十分だったか



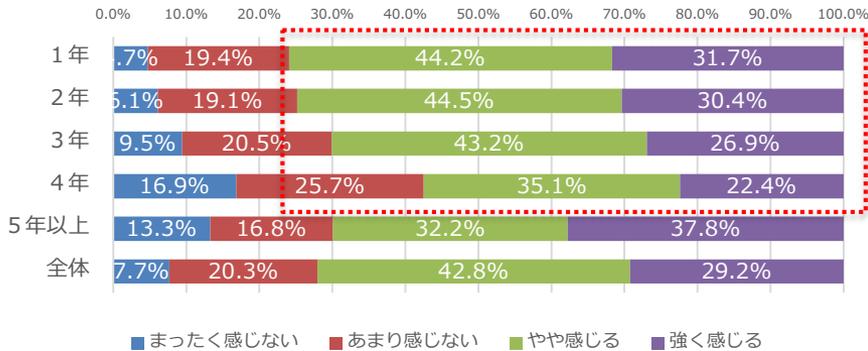
Q8-2 通信状態へのストレス



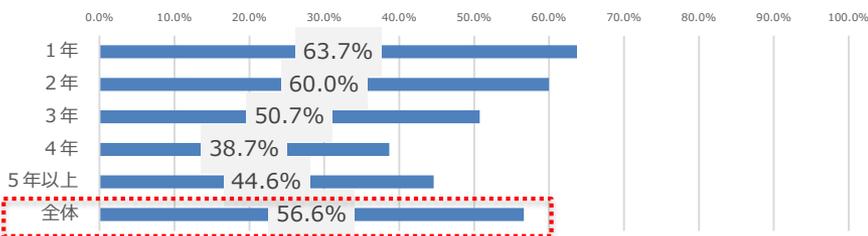
4 学生への連絡指示について

- 授業に関する情報の把握のストレスは、下位年次ほど強く感じる結果となった
- 「Q25 遠隔授業を受けて困っていること」では、半数以上の学生が「先生からの指示が分かりにくい」と回答
- 科目によって連絡ツール（関大LMSやインフォメーションシステムなど）や課題の提出方法が異なり学習しにくい（自由記述より）
- 動画の再生期限や課題提出の期限の指示が分かりにくい（自由記述より）

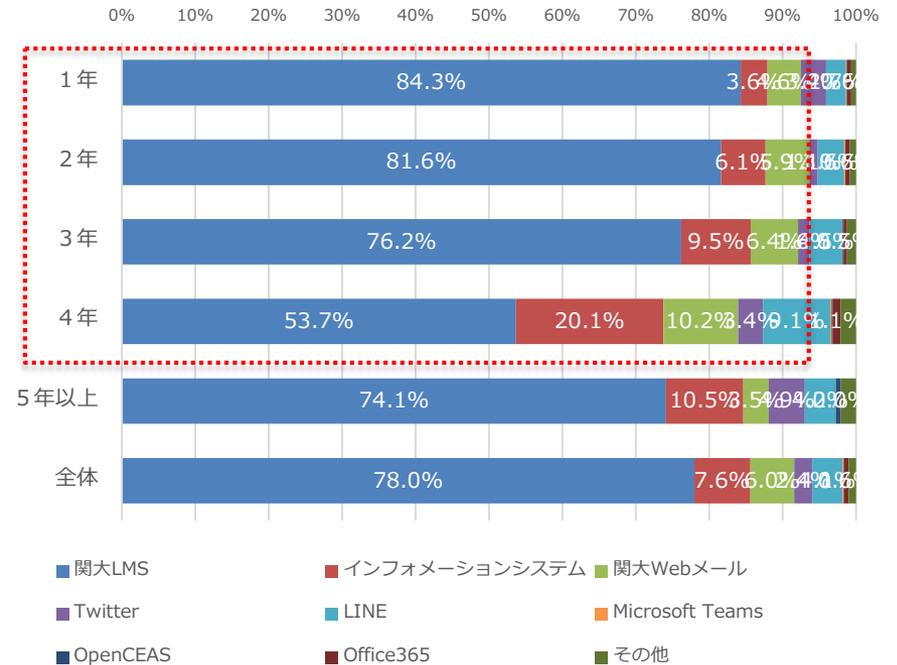
Q8-3 授業に関する情報の把握へのストレス



Q25-2困っていること_先生の指示が分かりにくい



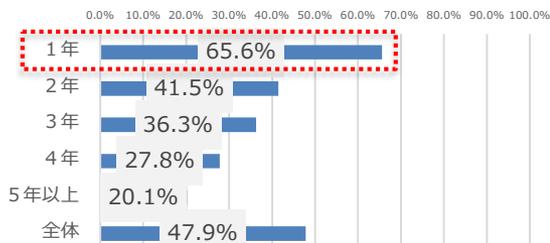
Q10 授業に関する情報を最も入手しやすいと感じるツール



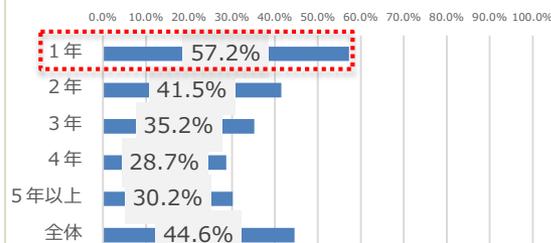
5 孤独とを感じる学生について

- 1年の半数以上が、「友達と一緒に学ばず孤独感を感じる」、「勉強のペースがつかみにくい」と感じていた
- 初めての大学の授業で、教員ともコミュニケーションがとりにくい実態
- 上位年次に比べて、1年は履修科目が多いこともあり、いずれの授業形態においても低い理解度、満足度

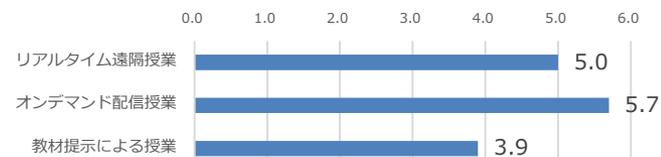
Q25-2 友達と一緒に学ばず孤独感を感じる



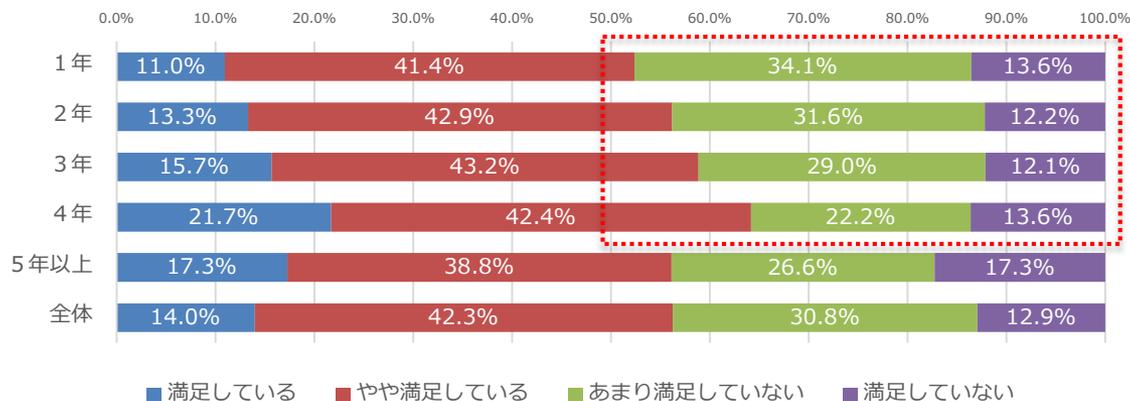
Q25-2 勉強のペースがつかみにくい



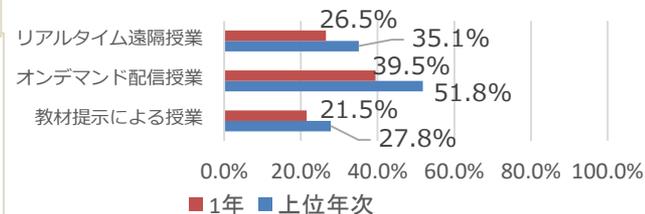
1年_各形態（授業）の科目数（平均）



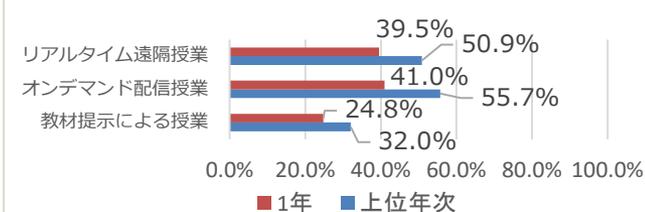
Q21 教員とのコミュニケーションにどの程度満足していますか



各形態（授業）の満足度

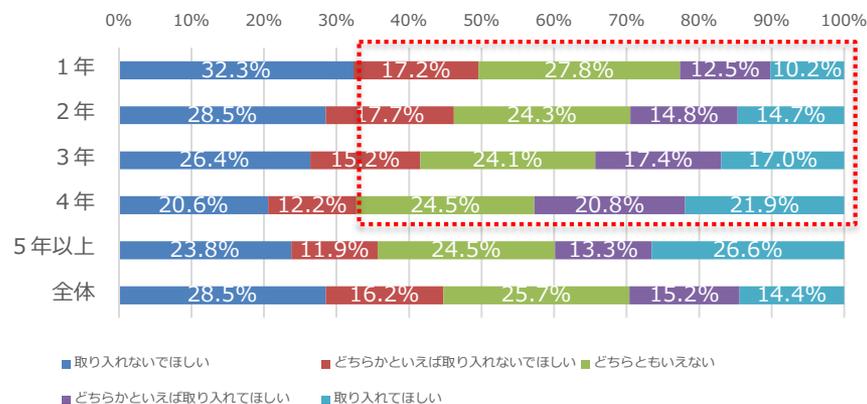


各形態（授業）の理解度

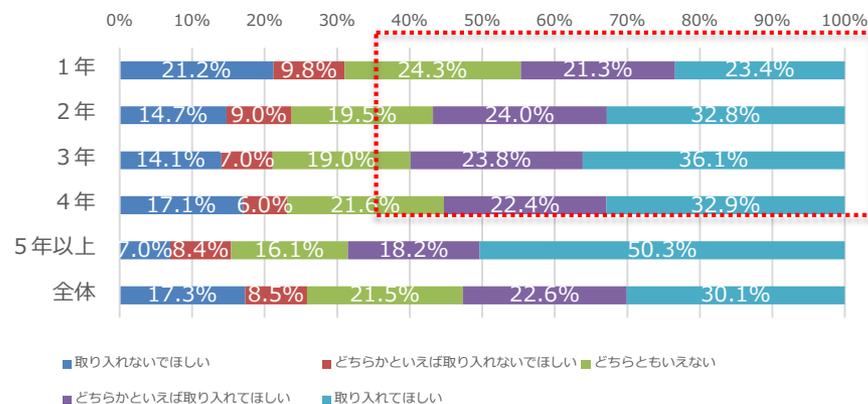


- いずれの授業形態でも上位年次ほど希望度が高い傾向となった
- 特に「リアルタイム遠隔授業」は学年による差異があった
- 2～4年では「オンデマンド配信授業」の希望度は半数以上となった
- 今後「ハイフレックス型授業（対面と遠隔授業の混合）」も視野に

リアルタイム遠隔授業



オンデマンド配信授業



教材提示による授業

